

ラグビーWCが来年、大分で開催

ラグビー部

わが大分大学ラグビー部は、1922年（大正11年）創部の九州最古のクラブチームです。大分高商開校時にはじまり現在は全学部の部員により活動しています。また、OB会も400人強のメンバーがOB相互の親睦と現役の支援等を目的に運営されています。特に、3年に一

度は大分で総会を開催し現役を含めた交流会を行っています。最近の話題と言えば何と言っても2019年にラグビーワールドカップ（RWC）が日本の12会場で開催されることでしょう。RWCはオリンピックやサッカーワールドカップ

プハウスなど何をとつてもけた違いでした。勿論、試合観戦は準々決勝の第1試合目（南アフリカvsウェールズ戦）で内容も白熱した展開でした。会場に向かうまでのファンゾーンの準備やボランティアスタッフの運営状況も素晴らしく、90分間の試合自体も最高潮に達し醍醐味も満喫できました。

確かに、RWCは4年毎に開催されるものではあるが、次回日本開催は不確実で、そういう意味では『4年に一度ではなく、一生に一度』です。

OB会でも大分銀行ドームに集結するような動きも出てきています。（但し、チケットが入手できるかが問題ではありませんか？）そこに分大ラグビー部の関係者が関与でき、大分を盛り上げればこの上ない喜びです。大会が成功すれば、結果として大分県内に多大な経済効果をもたらされます。何よりも、世界に大分を知ってもらおう絶好のチャンスになります。

最後に、2022年の創部100周年がOB会の世代間の結束や発展充実の弾みとなることを祈念いたします。

（玉ノ井志春 大26記）



大分大学ラグビー部のOBが大分に集結(2016年)。
下は2015年にイングランド大会を視察した時のもの。

と合わせ3大スポーツの国際大会のうちのひとつと呼ばれています。その大会ではここ大分でも一次リーグ3試合と準々決勝2試合の何と計5試合が開催される。（全48試合）私は、2015年のイングランド大会に縁あって大分県の視察団の一員として参加することが出来ました。大会がもたらす経済効果などのセミナーも意義深いものでしたが、何と言ってもラグビー文化の違いを見せつけられました。芝やクラ